令和７年度

幼稚園だより ２月号

文京区立千駄木幼稚園

それぞれの成長を感じて　～異年齢の関わりから～

副園長　矢澤　弘美

ある日の登園後、園庭から「だるまさんがころんだ！」と元気な声が聞こえてきました。ふと目をやると、一緒に遊んでいるのは、数人の年少児と年中児でした。年中児たちが「〇〇ちゃん、動いた。ほら、来て来て」「今度は、鬼は交代ね。それで、もう１回やるよ」などと声を出し、遊びを進めていました。年少児は、年中児の言葉を頼りに、園庭を何往復もしながら、遊び続けていました。

また、ある日の預かり保育では、「このキャラクターを描いて」と本を見せながら職員にせがむ年少児がいました。職員が、「先に〇〇をして来るから、その後でもいい？」と応じていると、「じゃあ、描いてあげようか？」と通り掛かった年長児が声を掛けました。年少児は、「耳は〇〇で、目は〇〇で」と年長児に本を見せながら、あれこれリクエストを出します。年長児は、リクエストに頷きながら、苦戦しつつも頑張ってキャラクターの絵を描きました。出来上がったところで、年長児が「ちょっと違っちゃったけれど、いい？」と絵を見せながら言いました。年少児は「うん！ありがとう」と笑顔で絵を受け取り、目の前に絵をかざして、じっと眺めていました。

学年の枠を超え、異年齢で関わる姿を見ていると、それぞれの成長に気付きます。

年少児は、自分のしたい遊びを見付けて動き出せるようになってきました。遊び方が分かると、繰り返し取り組み、楽しさを感じています。自分の思いが明確になってきて、周りに伝えたい意欲が湧き、思いを言葉で表そうとするようにもなってきました。

年中児は、周りにいる友達の動きや言葉を意識できるようになってきました。相手の言動に応じて、自分の思いや考えを表しながら遊ぶ楽しさを感じています。

年長児は、相手の思いに気付き、場面に応じた言葉を使いながら遊べるようになってきました。友達との遊びや生活の中で、自分の力を十分に出すことを楽しんでいます。

１学期や２学期の関わりの積み重ねに加え、それぞれの成長があるからこそ、３学期の今、異年齢の関わりが豊かに、楽しくなっているのだと思います。日々、子どもたちの成長をしっかり捉え、学年のまとめの時期へとつなげていきたいと思います。

【文林中の校庭で、３学年一緒に凧あげ】